

# ZOCALO 2017 8 ▶ 9

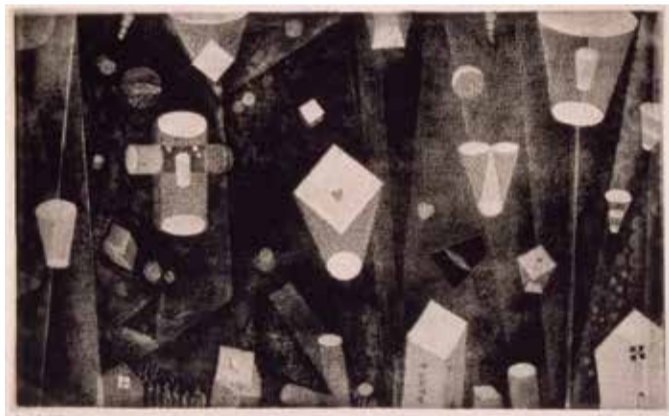
ZOCALO=ソカロはメキシコの都市の広場を意味するスペイン語。埼玉県立近代美術館はアートを通して交流する市民の広場をめざしています。

## 駒井哲郎 夢の散策者

2017年9月12日(火) ~ 10月9日(月・祝)

ここに《束の間の幻影》と題された1枚の銅版画があります。幾何学的なカタチがいくつも宙に浮かび、その下には建物が描かれています。背景に眼を向けると、黒と白の諧調をみせる面と線が複雑に重なり合っていて、これは暗闇に射し込む淡い光の層なのかもしれません。ここが、どこで、いつなのかは分からないけれど、移ろいゆく遠い記憶のワンシーンを見ているかのような、ノスタルジックな浮遊感に不意に襲われます。

作者の駒井哲郎(1920-1976)は、戦後日本を代表する銅版画家です。「夢と現実。私にはそのどちらが本当の実在なのかいまだに解らない」——そう語った駒井にとって、瞼の裏に浮かぶ夢や幻影は、生涯にわたる重要なテーマとなりました。とはいえ、駒井の「夢」は決して現実離れた口マンチックな幻想ではありません。駒井が残した文章を読むと、自己意識下に潜り込み、孤独のうちに見る夢に、現実以上のリアリティを感じ取っていたことが分かります。



駒井哲郎《束の間の幻影》1951年  
©Yoshiko Komai 2017/JAA1700091

夢と現実とは表裏一体であり、駒井は夢と現実の間の眩い閃光を、強靱な精神で版に刻み続けたのです。作品は一見すると軽やかでユーモラスですが、その背後に深い闇のような思索の痕跡が、静かに、でも確かに、存在しています。

当館は、株式会社ホダカ、マルキンジャパン株式会社(越谷市)からご寄贈いただいた駒井哲郎の作品を101点所蔵しています。会社の代表取締役であった故武田光司氏は、初めて駒井の作品に出会ったとき「清潔、真摯、ナイーブ、ヒューマン」といった印象が次々に心に浮かんだと語っています。その後、会社の創業20周年を記念して、駒井の作品を収集し、美術館に寄贈することを決意されました。幸いにも当館が選ばれ、平成4(1992)年度に初期から晩年までをたどることができる95点の貴重なコレクションをご寄贈いただき、さらに平成11(1999)年度に4点、平成13(2001)年度に2点をご寄贈いただいて、その数は101点となりました。

当館では「駒井哲郎と現代版画家群像 果実の受胎」展(1994年)で、このコレクションを公開するとともに、駒井に影響を受けた次世代の版画家の作品を紹介し、現代版画の多様な展開を探りました。それから23年を経て開催される今回の展覧会では、「駒井哲郎 夢の散策者」と題して、武田氏が収集したコレクションを改めて展示するとともに、一部借用作品を交えて、駒井が詩人と協同して制作した詩文集や、影響を受けた美術家の作品も紹介します。94年の



駒井哲郎《夢の始まり》1949年  
©Yoshiko Komai 2017/JAA1700091

展覧会が駒井哲郎から次世代へと受け継がれたものを検証する場であったとすれば、今回の展覧会は駒井の内面に焦点を当て、作品を通して、駒井が散策した夢と現実が交錯する世界を探る機会にしたいと考えています。(T.Y.)

### 駒井哲郎 略年譜

|       |     |   |
|-------|-----|---|
| 1920年 | 0歳  | 東京の日本橋で、氷問屋を営む裕福な家庭に生まれる。                                       |
| 1935年 | 15歳 | 西田武雄が主宰する日本エッチング研究所で銅版画を学ぶ。西洋の銅版画に魅了される。                        |
| 1938年 | 18歳 | 東京美術学校油画科に入学(42年卒業)。  |
| 1942年 | 22歳 | 東京外国語学校フランス語専修科に入学(43年卒業)。                                      |
| 1945年 | 25歳 | 空襲により、自宅が焼失。作品の大部分を失う。  |
| 1947年 | 27歳 | 世田谷の新居に移る(以降、世田谷区内各所に在住)。                                       |
| 1950年 | 30歳 | 春陽会第27回展に初出品。《孤独な鳥》で春陽会賞を受賞。                                    |
| 1951年 | 31歳 | 第1回サンパウロ・ビエンナーレに《束の間の幻影》を出品、在聖日本人賞を受賞。                          |
| 1952年 | 32歳 | 初の詩文集『マルドロオルの歌』(詩:ロオトレアモン/訳:青柳瑞穂)を刊行。前衛芸術家グループ「実験工房」に参加。        |
| 1953年 | 33歳 | 銀座の資生堂ギャラリーで初の個展を開催。  |
| 1954年 | 34歳 | フランスに留学。国立美術学校でロベール・カミ教授にビュラン(エングレーヴィング)を学ぶ。西洋文明の豊かさに圧倒され、翌年帰国。 |
| 1956年 | 36歳 | 吉川美子と結婚。  |
| 1960年 | 40歳 | 詩文集『からんどりえ』(詩:安東次男)を刊行。   |
| 1963年 | 43歳 | 交通事故に遭い、1年間療養する。  |
| 1966年 | 46歳 | 詩文集『人それと呼んで反歌という』(詩:安東次男)を刊行。                                   |
| 1970年 | 50歳 | 多摩美術大学教授に就任。  |
| 1971年 | 51歳 | 東京藝術大学助教授に就任(72年に教授)。この頃から多色刷りのモノタイプを数多く制作。                     |
| 1973年 | 53歳 | 美術出版社より『駒井哲郎銅版画作品集』が刊行される。                                      |
| 1976年 | 56歳 | 舌癌肺転移により、死去。  |

### 埼玉県立近代美術館 35周年企画 第1弾!

## ベストデザインの椅子グランプリ 予選投票受付中!!

今年度35周年を迎えた埼玉県立近代美術館。秋には記念企画展「開館35周年記念展 ディエゴ・リベラの時代」展の開催が予定されています。更に、今回の35周年は『みなさんとともに』をコンセプトに、埼玉県立近代美術館を利用し、愛してくださる皆さまと共につくる催しを予定しています。

当館に来てくださる方の中には、展覧会でもショップでもレストランでもなく、館内の「椅子」を目当てに来てくださる方がいます。「椅子の美術館」として、館内に設置しているグッドデザインの椅子ほとんど全てに実際にお座りいただけることは、開館以来当館の重要な方針のひとつです。本間正義 初代館長は、美術作品を皆様に見ていただく時、作品保護の為にどうしても明るさや距離などの制約がついてまわるジレンマを、くつろぎながらじっくり作品と向き合うために館内の椅子を充実させることで、少しでも解決しようと考えていました。当館は開館以来のそのような想いを背景に、名脚といわれる椅子、

## 35周年メッセージも募集中です!!

グッドデザインとして定評のある椅子、珍しい変わった椅子を集め、展示室をはじめとする館内のあちこちに設置してきました。ある時は展示室のアクセントとして、ある時は作品とじっくり向き合うために、またある時は皆様の休憩場所として、見るためだけでなく座るために集められた椅子は、現在70種類以上にのぼります。

そして今回、35周年を記念して、特に人気の高い椅子を対象とする初の人気投票「ベストデザインの椅子グランプリ」を行います。エントリは左下の16脚。見た目、座り心地、椅子にまつわるエピソードなどにおいて、いずれ劣らぬ愛され椅子たちです。対象の椅子は投票期間中館内に設置され、自由に座りいただけます。美術館1階・吹き抜け周りに設置してある投票ボード、または公式twitterアカウント[@momas\_kouhou]で行うアンケートにて投票いただき、あなたのベスト椅子を応援してください。予選の後、勝ち抜いた8脚を対象に決戦投票を行い、グランプリを決定します。

更に、『みなさんとともに』盛り上げていく35周年企画として、開館当初のこと、印象に残る展覧会、美術館での思い出等々…埼玉県立近代美術館の35年間への熱いメッセージを大募集します。館内ロビーまたはtwitter(ハッシュタグ[#momas35])をつけて投稿にて、どしどしお寄せ下さい。募集期間は7月1日(土)~9月30日(土)。集まったメッセージは、35周年を象徴するもののひとつとして秋の美術館ロビーを彩ります。

開館記念日を含む11月には、拡大版ギャラリートーク、企画展ポスターの展示、ちょっと変わった企画まで!?様々なイベントを準備中です。お楽しみに!(Y.S.)

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| <b>予選1: 王様気分の椅子部門</b> [投票期間: 7月1日(土)~7月16日(日)]  |   |   |   |
| ①   | ② | ③ | ④ |
|   |   |   |   |
| ① エリゼ・アームチェア: ジャン=ミッシェル・ヴィルモット / 1983年<br>② トーテム: トールスタイン・ニールセン / 1983年<br>③ バルセロナ・チェア: ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ / 1929年<br>④ ヒルハウス1 / ヒルハウスのベッドルームのためのハイバック・チェア: チャールズ・レニー・マッキントッシュ / 1903年 |   |   |   |
| <b>予選2: 個性派ぞろいの椅子部門</b> [投票期間: 7月22日(土)~8月6日(日)]  |   |   |   |
| ⑤   | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
|   |   |   |   |
| ⑤ XL(ブランクトン1.8): graf / 2004年<br>⑥ エクストレム: テルイエ・エクストレム / 1972-77年(展示はグリーンのもの)<br>⑦ パントン: ヴァルナー・パントン / 1959-60年<br>⑧ マリリン / ボッカ(口): スタジオ65 / 1970年   |   |   |   |
| <b>予選3: モクメ部門</b> [投票期間: 8月12日(土)~8月27日(日)]   |   |   |   |
| ⑨   | ⑩ | ⑪ | ⑫ |
|   |   |   |   |
| ⑨ ジグザグ: ヘリット・トーマス・リートフェルト / 1932-33年<br>⑩ スツール ST-6: ムンドス社 / 20世紀<br>⑪ バタフライ・スツール: 柳宗理 / 1953-54年<br>⑫ ムライスツール: 田辺麗子 / 1961年  |   |   |   |
| <b>予選4: The椅子?部門</b> [投票期間: 9月2日(土)~9月17日(日)]   |   |   |   |
| ⑬   | ⑭ | ⑮ | ⑯ |
|   |   |   |   |
| ⑬ バイミオ / アームチェア41: アルヴァ・アールト / 1930-31年<br>⑭ レッド・アンド・ブルー: ヘリット・トーマス・リートフェルト / 1918年(基本原色の塗装は1923年頃から)<br>⑮ 折り紙チェア / ツル-B: 笠松栄 / 1982年<br>⑯ ジン: オリヴィエ・ムルグ / 1964年                          |   |   |   |

### 美術館サポーターの新メンバーを紹介します

MOMASコレクション展示室で毎日2時から行われる作品解説ガイドは、当館の大切なサービスのひとつです。それを支えて下さる美術館サポーター(ガイド・ボランティア)に新しい仲間が加わりました。

明瀬さん、秋本さん、町田さんの3人は、他館でもガイド・ボランティアをしているベテランで、新人とは思えない堂々とした語り口。中村さんは当館の彫刻洗浄ボランティアを長年務めて下さった彫刻洗浄のスペシャリスト。栗本さんは自治会長。松本さんはプロのマジシャン。矢花さんは小学校の先生と、個性豊かなメンバーです。

現在、新メンバーを含む35名のサポーターが活動中です。午後2時になったら、ぜひ展示室をのぞいてみてください。毎日違った味わいのガイドを堪能できること、請け合いです!(T.K.)